

財団法人まちみらい千代田
平成17年度第2回評議員会議事録

1 日 時

平成17年5月23日(月) 午前10時から午前11時7分

2 場 所

ちよだプラットフォームスクウェア5階505~6会議室 (千代田区神田錦町3-21)

3 評議員現在数 20名

4 出席者

(1) 出席者(15名)

内山勝行、木元尚男、久寿米木康宣、熊井実、高田咲子、棚橋孝江、塚本一郎、
露崎昌枝、寺井歳子、中川典子、長坂慶子、野本俊輔、服部浩美、廣瀬元夫、
本郷滋

(2) 委任状提出者(5名)

大澤義行、岡田貫伍、陣内秀信、藤田聡、矢部一憲

(3) 当法人の出席者

理事長 長田貴雄、副理事長 川崎侑孝、副理事長 窪田文弘、
常務理事 松岡忠男、事務局長 櫻井秋楽、事務局次長 石嶋光代

5 議 題

- (1) 議案第1号 平成16年度財団法人千代田区街づくり推進公社事業報告について
- (2) 議案第2号 平成16年度財団法人千代田区街づくり推進公社収支決算について
- (3) 報告事項 財団法人まちみらい千代田平成17年度事業実施計画(骨子)について

6 議事の経過及び結果

定刻に至り、野本会長が寄附行為第35条第1項の規定により議長となり、開会を宣言し、長田理事長に開催挨拶を求めた。

次に、事務局に本日の出席者について報告をさせ、寄附行為第27条の規定に定める定足数を満たしていることを確認し、本評議員会が有効に成立している旨を告げた。

引き続き、本評議員会の議事録署名人として議長から、内山勝行評議員と棚橋孝江評議員の2名を指名したい旨を諮ったところ、満場一致の賛成があったので、両評議員を指名し、本人もこれを承諾した。直ちに議案の審議に入った。

- (1) 議案第1号 平成16年度財団法人千代田区街づくり推進公社事業報告について

- (2) 議案第2号 平成16年度財団法人千代田区街づくり推進公社収支決算について
議案第1号及び議案第2号は相互に関連があるので、これを一括して審議したい旨を諮ったところ、全員異議なく了承した。

資料に基づき事務局から、議案第1号及び議案第2号についての詳細な説明があり、5月13日に実施された監事監査において、正確かつ適正であるとして承認されたことを報告した。両議案に対して審議のうえ、出席評議員に諮ったところ、全員一致をもって同意することに決した。

なお、その際、次のような質疑応答があった。

- 千代田区地域産業の振興策に係る基礎調査では、調査対象19社のヒアリング調査だけを実施したものなのか。

(事務局)

千代田区内の地域産業の現状把握のため、ヒアリング調査以外にも、事業所統計等の資料を利用し、千代田区の特徴的な産業の状況把握を行い、当法人の産業支援策の方向性についての提言を合わせて受けたものである。

- 千代田区への補助金収入返納金とは、どのようなものなのか。

(事務局)

事業費や人件費等に対して、千代田区からの補助金を受けているが、事業の実施に伴い残金が生じた分について、区に全額返納したものである。

- (3) 報告事項 財団法人まちみらい千代田平成17年度事業実施計画(骨子)について

第1回評議員会において説明した平成17年度事業計画を要約して分かりやすくまとめて作成した事業実施計画(骨子)について、事務局から配付資料を基に詳細な報告を行った。

なお、その際、次のような質疑応答や意見があった。

- 法人と千代田区との役割分担があまり明確になっていないように感じられる。産業振興と企業育成の分野では、区が中小・零細企業や商店街振興を行い、法人がやる気のある企業の積極的支援を行うとしているが、中小・零細企業の中にもやる気のある企業はあるはずであり、これらにはどういう違いがあるのか。区は公平性を重んじた事業を中心に実施し、法人はベンチャー等の起業家育成を行うことになると感じている。

(事務局)

区では従来、やる気のある企業の育成を積極的に実施してきていない。基本的に区は行政として、公平性を重視した弱者救済的な面を担ってきた。公平性や格差是正の事業は行政の色が濃いため、当法人と区との役割分担を図った上で、区において実施することになり、これまで旧中小企業センターで実施してきた商工融資のあっせん等については、現在は区に事業移管して行っている。やる気のある企業に対する支援策としては、従来から一步踏み出して、当法人が様々な企業向けのセミナーを企画している他に、中小企業基盤整備機構との業務提携を通じて、専門家や企業OB等を活用

して企業に派遣する等し、企業経営の強化を図ることを予定している。当法人は、区とは異なるスタンスで産業振興施策を実施したい。

- 産業振興と企業育成の事業分野の、IT産業を初めとした産業集団の形成支援とは、どのようなものか。

(事務局)

クラスターの概念は大変に大きく、千代田区内という限られたエリアにおける産業集団との概念には開きがある。やる気がある企業への積極的支援という点で、千代田区の特性を活かした産業振興の支援ができないか、関係する機関等に呼びかけることにしたい。区内にはIT産業が多く、その地域特性を活かして、千代田区の強みを発揮させたい。

- まちづくりの事業分野の、エリアプログラムの策定で2エリアとあるが、具体的にエリアは決まっているのか。

(事務局)

現時点では具体的にエリアを決めていない。この事業は新しい手法となるので、エリアの選定に当たっては、区や地元との協議を十分に行って詰めていきたい。

- 観光とコミュニティ活動の事業分野の、江戸天下祭の集客目標が50万人となっているが、前回は第一・第二の両会場合わせて35万人だったはずであり、今回の江戸天下祭では、どういう特徴をもって集客するつもりなのか。

(事務局)

1 昨年の江戸天下祭では、3日間開催して約80万人弱の集客があった。今回の江戸天下祭は2日間の開催であり、1昨年にならい、山車と御輿の巡航を中心に実施する予定である。このため、山車と御輿の巡航に30万人以上を見込み、他を合わせて約50万人の集客を見込んでいる。

- 住みよい活力に満ちた地域社会の創出とあるが、まちづくりを行っていく上では、人的な交流や文化的な視点が必要であると考えている。実施計画では、その点が見えにくいのではないか。また、従来の公社と法人の相違点として、ハード以上にソフトを重視するとあるが、ここでいうソフトとはどのようなものなのか。

(事務局)

これまでのまちづくり施策は、その地域において建物をいかに建てるかという視点で実施されてきた。しかし今後は、エリアプログラムを考えていく上でも、建物を使用する在住・在勤者が、いかに建物を使いやすくできるのかということが重要になる。当法人では、これまでも千代田まちづくりサポート事業を実施してきているが、これは千代田区のまちづくりに関心のある在住・在勤者や外国人等からの知恵を借りてまちづくり施策に活かしていく事業である。様々な方が生活する視点を踏まえて実施しているこれらソフト事業を活用し、今後の事業を執行していきたいと考えている。

- 台東区の循環バスを観光のために利用したことがあるが、バスの利用者には住民の他にも、浅草三社祭があったため外国人等が多かった。丸の内や日本橋でも無料のバスが

運行されており、平日の利用は少ないが、休日等は利用者が多いようである。このようなバスの運営を通じて、区内の観光等の資産を活かしたり、外国人等呼び込んだりすることができると思うが、法人として考えてみてはどうか。

(事務局)

3つの公社の統合前に旧コミュニティ公社において、観光資源をどのようにPRし利用してもらうかについて、区民の声を聞き、研究を行ってきた。区内には多くの観光資源があるので、当法人がどのようにPRしていくのかについては、大きな課題であると認識している。このことが引いては、区の商工業の発展につながるものと考えている。

- 法人は区民に重点を置いた施策を展開していくようだが、千代田区の特徴からすると、区民以外の方がむしろ多いので、区民以外にも施策の重点を置くように、区との施策の違いを出していくことが重要ではないか。
- 区内には11の大学があるが、学生が区内に住むことは難しい。大学生に千代田区を知ってもらうことは重要であり、法人は大学で実施している国際交流との連携を図ってみてはどうか。

7 その他

事務局から、次回の評議員会は今年秋頃に開催を予定していることを伝えた。

8 閉 会

以上をもってすべての議題の審議を終了したので、午前11時7分に議長は閉会を宣言し、解散した。

上記の決議を明確にするため、議長及び議事録署名人2名がこれに署名、押印する。

平成17年5月23日

財団法人まちみらい千代田
平成17年度第2回評議員会

議 長 野 本 俊 輔 ㊟

議事録署名人 内 山 勝 行 ㊟

議事録署名人 棚 橋 孝 江 ㊟